

## 第2回石油コンビナート防災対策技術研究会 議事録

日時：12月7日（水） 15：00－17：45

場所：大阪大学工学部 S1 棟 3 階 323 室（会議室）

参加者：加藤(産業防災研)、青木(阪大)、鈴木(阪大)、高木(阪大)、倉敷(阪大)、向山(阪大)、石丸(阪大)、千田(港湾研)、城田(海技研)、南(大阪府政策企画部危機管理室)、宮下(堺市消防局)、奥村(大阪市港湾局)、明松(大阪市港湾局)、田中(大阪府港湾局)

議事録作成：高木(阪大)

配布資料

議事次第

資料番号

- NATECH16-02-1 表 1.3.5 南海トラフ巨大地震（進行波）に対する結果一覧（その1）
- NATECH16-02-2 図 1.3.9 海岸保全施設 沈下量平面図（その1）
- NATECH16-02-3 大阪府都市整備部 地震防災アクションプログラム(一部抜粋版)
- NATECH16-02-4 大阪市港湾局資料① 防潮堤チャート式診断結果一覧表（此花地区）及び第7回南海トラフ巨大地震土木構造物耐震対策検討部会中間報告(第2次)（案）より抜粋（H26.2.5）
- NATECH16-02-5 大阪市港湾局資料② G 地区個所付図
- NATECH16-02-6 堺市公文書公開請求書及び回答書
- NATECH16-02-7 大阪市消防局への情報公開請求及び回答書
- NATECH16-02-8 第9回レスポンシブル・ケア大阪地区地域対話について（報告）
- NATECH16-02-9 環境・安全・健康を守る化学産業の取り組み レスポンシブル・ケアを知っていますか？
- NATECH16-02-10 リスクアセスメントとデータベース（一般損傷確率と必要性）
- NATECH16-02-11 震災漂流物の漂流推定法と津波火災の発生推定手法の開発
- NATECH16-02-12 津波火災基礎実験報告
- NATECH16-02-13 大規模自然災害と石油コンビナートの防災

議事内容

(1)南海トラフ大地震時の堺市堺泉北地区および大阪市此花地区防潮堤耐震診断

- ・田中より、NATECH16-02-3 に基づき、大阪府都市整備部地震防災アクションプログラムの説明があった。基本方針について概要説明があり、防潮堤の強化計画について対策実

施箇所の具体的説明があった。NATECH16-02-1、NATECH16-02-2 に基づき、南海トラフ巨大地震に対する結果(津波高さ、沈下量、等)の説明があった。

- ・明松より、NATECH16-02-4、NATECH16-02-5 に基づき、大阪市此花地区の防潮堤チャート式診断結果について説明があった。基礎が液状化層中にある堤防に関しては M9クラスの巨大地震に対しては破壊と判定され、此花地区の多くの堤防は機能しない結果となっている。対策については国による直轄事業化について協議中であるとの説明があった。

#### (2)大阪市消防局及び堺市消防局情報公開請求回答

- ・加藤及び宮下より、NATECH16-02-3 に基づき、堺市消防局に対して情報公開請求を行った回答文書の説明があった。請求事項は、堺泉北地区にある石油コンビナート等防災区域にある事業所の、危険物施設に共通する津波対策、屋外タンク貯蔵所に係る津波対策、及び事業所に対して堺市消防局が行った対応、である。各事業所からの回答（東燃ゼネラル、コスモ石油、三井化学、大阪国際石油精製、辰巳商会、日本酢ビ・ポパール、丸紅エネックス）について資料に基づき説明があった。
- ・加藤より、NATECH16-02-4 に基づき、大阪市消防局に対して情報公開請求を行った回答文書の説明があった。請求事項は堺市消防局への請求と同様であり、各事業所からの回答（アスト、櫻島埠頭）について説明があった。

#### (3)日本化学工業協会 RC 推進部「地区対話」報告

- ・南より、NATECH16-02-8 に基づき、平成 28 年 11 月 16 日（水）にホテル阪神で行われた第 9 回レスポンシブル・ケア大阪地区地域対話についての報告があった。基調講演では日本化学工業協会よりレスポンシブル・ケアについての紹介および地域住民とのコミュニケーション活動についての説明があった（NATECH16-02-9 日本化学工業協会パンフレット資料）。また、カネカ、田岡化学工業、住友化学等の石油化学メーカーからの事例発表があった。

#### (4)リスクアセスメントとデータベース

- ・石丸より、NATECH16-02-10 に基づき、日本及び海外における化学プラントのリスクアセスメントに関する説明があった。日本、EU、アメリカにおける法規制の紹介があり、リスクを評価するための発生確率評価方法とそのためデータベースの構築の必要性について説明があった。

(5)震災漂流物の漂流推定手法と津波火災の発生推定手法の開発

- ・千田より、NATECH16-02-11に基づき、津波漂流物の漂流計算モデルと津波火災推定手法の開発に関する研究紹介があった。がれきの発火・鎮火条件の推定に関しては今後さらなる精度検証が行われるとの説明があった。

(6)津波火災基礎実験報告

- ・鈴木より、NATECH16-02-12に基づき、津波火災基礎実験の報告があった。がれきの集積度が燃焼形態に影響を与え、また油処理剤によって燃焼規模を低減化出来る可能性があるという説明があった。
- ・加藤より、港湾研においても界面活性剤を用いた火災実験が行われており、一定の効果があることが実験的に確かめられているとの説明があった。

(7)その他

- ・青木より、NATECHに関する国際シンポジウムが2017年3月14日に大阪大学中之島センターにて開催されるとのアナウンスがあった。